

平成 30 年 5 月 18 日

釜石市議会議員 佐々木義昭様

釜石市議会 海盛会

代表者 古川愛明



会派視察調査報告書

当会派所属議員 古川愛明 海老原正人 赤崎光男

視察調査を平成 30 年 5 月 8.9.10 日、西宮市及び東京都中央区八重洲で下記の通り実施しましたので報告します。視察行程は別紙資料を添付致します。

1. 視察項目：蔦による壁面緑化について（西宮市内）

日時 平成 30 年 5 月 9 日 午前 10：00～12：00

参加者 古川愛明、海老原正人、赤崎光男

相手方 阪神電気鉄道株式会社 甲子園事業部運営担当 山出進

阪神園芸造園本部緑地管理部係長 松本匡司

研修内容

①視察先に選んだ理由

東日本大震災からの復旧復興工事の最中、嵩上げ工事、ハード物建設が行なわれているが、特に海岸線における防潮堤の建設は目を見張るものがある。14.5m、12.5mあるいは6.5mと様々な高さ、又、巾においても60mから直立のものといろいろだが、それらの表面は全てコンクリート平張りであり、巨大なコンクリートの塊を設置することは、味も素っ気も無い様に思える。2019年9月に釜石市鶴住居町の釜石鶴住居復興スタジアムにてラグビーワールドカップが開催される。根浜や世界遺産橋野鉄鉱山のある中で片岸海岸防潮堤を観光地として、ワールドカップ開催にあたり、選手や来場者への歓迎、復興復旧への継続支援への意を込めて、緑と草花で囲うことができればとの思いから、あの高校野球のメッカ甲子園の蔦を思い出し、緑化との考えから甲子園を研修の場とした。

②甲子園における蔦植生の概要

甲子園の蔦は1924年（大正13年）甲子園の誕生と同時に景観向上策として外周に植えられたもの。当時は日当たりが良いところにナツツタ、日当たりが悪いところにはフユツタを植栽したが、現在はナツツタのみ。甲子園全体を蔦で覆っていたものを今回リニューアル



で一旦すべて伐採し、再植樹されたもの。再植樹から 7 年の経過でまだまだ壁面が見えている状況だが、元のように全体を覆うにはさらに 10 年ぐらいかかるとのこと。尚、蔦移植という蔦実生苗育成については別紙説明書①を参照のこと。

視察経過

阪神電鉄甲子園駅では、甲子園運営担当者に迎えられ、応接室での蔦（フユツタ）（ナツツタ）等つる性植物説明と甲子園の蔦について説明を受け、終了後甲子園一円を視察し、それぞれの場所での質疑応答がなされた。

所感

素人がプロの仕事を研修するようなものがあったが、次々と完成していく三陸沿岸の防潮堤の巨大さ、又、コンクリートの塊が海岸線に並んでいるようで何か不気味な感じさえする。私は当初、あの大きな津波さえ防ぐことができればと考えたものだが、今、その姿が見えてきた時にバラの花で家を覆おっている所、又、家を緑で覆っている所等をイメージして参った所であったが、甲子園球場の大きな壁を緑で一杯にする景観を見た時、これだと考えた。甲子園の蔦はリニューアル前の状況は、テレビ等、報道によりよく見ていたが、実際に見るのは初めてであり、リニューアル後の、蔦の実生苗育成後、間もない為、順序だてて詳しく説明を受けることができた。「以前は、1 本の根からの蔦で、球場全壁を覆っていた。水分の補給が必要で肥料はいらない。壁面緑化の計画期間は 15 年から 20 年間と考えている。植樹は 1m 四方の場所に苗を 8 本程度植え、壁面を這わせる方式（土は深さ 1.5m 程度）、管理の手間として害虫駆除や動物よけが必要。蔦類には登攀性のもの、下垂性のものもあるので樹種選択時には留意すること。気候により育たないものもあるので試験植樹を勧める。花物はメッシュなどで誘導する必要がある。デザインや即効性を求めるならプランターやパレットを活用し、花を活用することも検討しては」と説明を受けた。防潮堤への緑化は技術的には可能なものと考えられる。この際の緑化にかかる財源は復興交付金あるいは、町づくりのための交付金等各種あるわけだが、そこで、財源の確保にも当局での一工夫必要。財源確保次第でコンクリート法面を植生することで緑化、草花の彩りを活かすことで鶴住居でのラグビーワールドカップに華やかさを添えうる景観を形成することが出来ると感じた。必ずや実践すべしと考える。

進め方等、工夫次第で一大観光地となる要素もあると夢を見る。甲子園での学びを我故郷でも生かし、実践あるべしと考える。

2.視察項目：防潮堤緑化のための壁面緑化について（東京都中央区内）

日時 平成 30 年 5 月 10 日（木）午前 10：00～12：00
参加者 古川愛明 海老原正人 赤崎光男
相手方 公益財団法人 都市緑化機構研究員 菊池佐智子
 " " 運営委員長 藤田茂
 西部造園株式会社設計技術課長 本郷壮一
 直木技術事務所 直木哲
 ダイトウテクノグリーン株式会社緑化資材開発部長 牧隆
場所 東京都八重洲口東京駅グランルーフ
 " 京橋エドブラン
 " 日本橋川護岸（日本橋左岸下流）
 " 日本橋小学校壁面

研修内容

①視察に選んだ理由

前日の甲子園視察と同様の理由となると考えるが、緑化技術の多様性、公益財団法人緑化機構をインターネットで見て緑化の技術は都会の方が発展発達していることがわかり、それぞれの現場を視察研修し、防潮堤緑化への提案ができればと考えて視察することと致しました。

視察経過

激しい雨、雷の中、徒歩電車で 2 時間動きながら現場での壁面緑化についての説明を受けた。技術的、気候的、土壌的、又、土壌を使えない等の時、稲わらを使う、金網、スポンジ等、特殊加工品を使っのそれぞれの場所での緑化について説明を受けた。

①東京駅八重洲口 グランルーフ概要について（西部造園株式会社）

- ・計画、整備 2002 年から段階的に進められる
- ・ツインタワー開業 2007 年
- ・全長 230m に及ぶ大屋根、歩行者デッキ壁面緑化をランドマークとして「グランルーフ」完成 2014 年
- ・グランルーフを主体に駅前広場全体が環境に配慮した光、水、緑、地費植栽壁面緑化、ソーラーミスト、風力発電等一体的に整備された緑地 3,000 m² に及ぶ
- ・ランドマークとしての多彩な壁面緑化とした
- ・植物選定や緑化工法についてはあらゆる条件設定のもと、2 年以上に渡り、試験検証を行なう

- ・緑化壁面を効率的な維持、管理を徹底する

※釜石市防潮堤緑化のための提言資料をいただく

②京橋エドグラン概要について（直木事務所）

- ・壁面緑化 → 大階段周辺
単植の壁面緑化で安定した緑の創出～京橋二丁目西地区第一種市街地再開発事業
- ・壁面緑化 → 南側
混色の壁面緑化で華やかさを演出
- ・環境に配慮した壁面緑化

③日本橋川護岸概要について（直木事務所）

- ・日本橋川水辺再生ワーキンググループ事業として三井不動産事務局が実施
- ・土壌は保水力のあるものを用いる
- ・肥料から水やりまで出来る限り自動で行なう
(水やりはトイレ水道から分岐している)
- ・植栽は柵を堤防周辺に整備し、堤防には何等影響しないようにする
- ・所処に等間隔で高木（桜）を植栽

※片岸防潮堤緑化の提言を受けた（資料有り）

④日本橋小学校概要について（ダイトウテクノグリーン株式会社）

- ・2011年2月ヘデラ・ヘリックス・カナリエンシス等7種類のヘデラを中心に植樹
- ・資材の写真を見るとわかるが、維持管理は一切していない
- ・資料の写真2017年4月施工後6年2ヶ月で壁面全体を被覆

所感

甲子園での所感と同じようになると思うが、それぞれの防潮堤を考えた時に、海そして住宅、工場の町並み、更にその先は山となる。海と山の間にはコンクリートの塊が長く高く、幅広く横たわる。ただそれだけで津波に対する減災は可能。しかし、海と山の間には住民、市民が居住する。朝な夕なに必ずこのコンクリートの塊を見ることになる。誰しもが嫌だと思ふ。視察研修した多種多様な緑化技術がある。これらの技術に更なる創意工夫もできることと思われる。プロいや素人でも植物への造詣のある人であれば素晴らしいコンクリートの塊への緑化は可能だと感じた次第。三陸海岸線での見事な先鞭となるべきことではないかと考える。

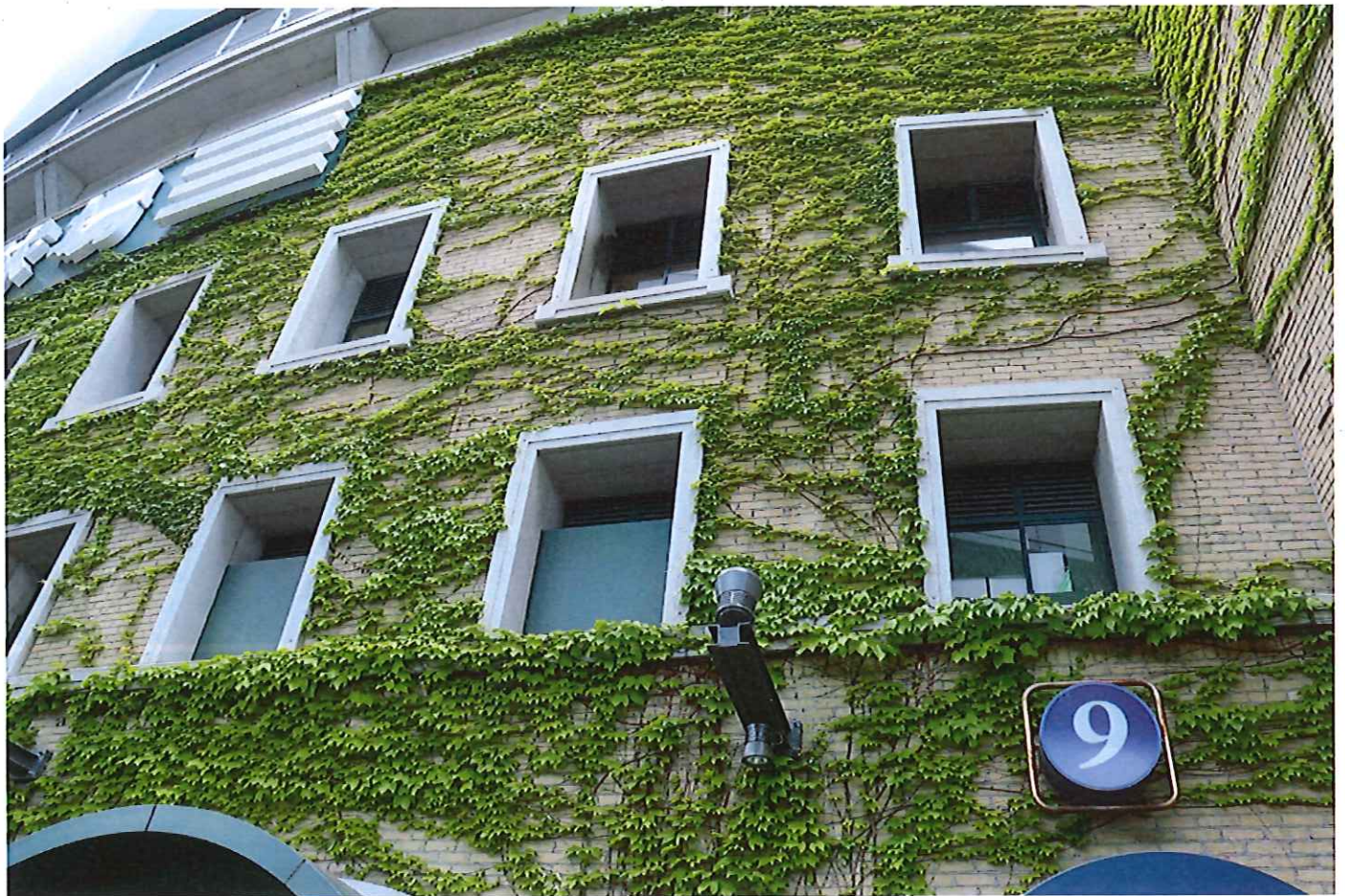
鶴住居で行なわれる2019ラグビーワールドカップ開催には後500日を切ってしまう、蔦類での植栽は成長に時間もかかり、今後充分検討が必要と思われる。それでもラグビーワールドカップ開催までに、防潮堤の緑化等も考えられるのであれば、プランター等を考えた草花

の植樹も有りうる。又、財政的に許されるのであればプロにお願いし、緑化の為の努をすべきとも考える。さらには、今回の視察研修において4社よりそれぞれの提言を頂いている。検討に値する案件だと感じている次第。

鶉住居又、片岸防潮堤の隣には減災になる片岸公園の設置が検討されている。片岸公園と片岸防潮堤のコラボレーションも楽しいものとなると考えられる。



甲子園球場 蔦の根本



甲子園球場 蔦の現況



甲子園球場入口



甲子園球場 社長室での説明会



東京駅八重洲中央口での視察行程説明



東京駅八重洲口 グランルーフ壁面緑化の一部



京橋江戸グラン



日本橋川護岸緑化 川側



日本橋川護岸緑化 内側



日本橋川護岸緑化 内側



日本橋小学校 壁面一部



日本橋小学校 壁面拡大